

# ナバリスト 7

岩木 寛人 さん | 訪問美容師・介護士



IWAKI\_KIRISHI

いわき・ひろと ● 東京や大阪で会社員をしていたが、母親が認知症と診断されたことをきっかけに名張へ。帰郷後しばらくは母親の介護で悩んでいたが、友人などの支えで訪問美容の道へ。母・朝子さんの大好きな紫色の毛先がトレードマーク



同級生や地域の仲間たちとの活動も広がっている



「自慢の母ちゃんです」と寛人さん



外出困難な人が訪問美容で笑顔に！

## 母が認知症になって、気付けたことがある

ある日、母から「料理が作れない」「計算できない」と泣きながら電話が…。「若年性アルツハイマー型認知症」と診断を受けたのが7年前。母が54歳、私が27歳の頃でした。悩みながらも大阪から帰郷し、母の介護をすることに。病気の進行や医療費のことなど不安でいっぱいなのですが、友人やまちの保健室職員などが、親身になって支えてくれました。今でもずっと感謝しています。

その間、友人の励ましもあり、訪問美容の道へ。髪を切ってキレイになると、皆さんすごく喜んでくれます。時には、介護の相談を受けることもあり、「自分にしかできない仕事」と誇りを持つように。介護や手話、心理カウンセラーなどの技術も一つひとつ身に付けているところです。それは、どんな困難がある人にも寄り添えるようになりたいから。自分もずいぶん助けてもらいましたからね。

最近と同級生などと、地域の催しで焼きおにぎりを販売。その売上で保育園や児童養護施設にプレゼントを配る活動も始めました。まちのために「何かしたい」人も多いので、自分たちのチャレンジを見てもらって、心に火をつけてもらいたいです。

田舎が嫌いで東京や大阪で働いていた私。名張で人とのつながりの大切さに改めて気付かされ、自分らしく生きていくようになって感じます。母の笑顔をとらんで見ていると、これでもよかった、幸せだなんて思っんですよね。

## 編集後記

「私、認知症なのですよ」と気軽に語れる世の中になった先にこそ、本当に幸せな生き方が待っている……。取材を快諾いただいた杉本さん推薦の本の一節です。特集がその一助になれば！（たか）

「広報紙の表紙を飾るのが目標だったのですごく嬉しい。しかも母ちゃんと一緒とは」と岩木さん。なんと嬉しいお言葉。たくさんの方からこう言ってもらえるよう頑張ります！（くま）

記事を書くなら食べなければ！と、「謎めし」を食べに行きました。店員さんとの会話を楽しみながら絶品の料理を堪能。各お店で内容が違っていると聞いたら、全店めぐりたくりますね（はる）



名張のひと・活動

